

な ならしの ら た はたらく く



～夢に向かって共に働く願いを込めて～

共感と理解を通じて差別のない 明るい社会を

～障がいのある人にとって優しいまちは、誰にでもやさしいまち～

去る8月24日～9月5日、東京2020パラリンピック競技大会が開催され、各国のアスリートが沢山の感動を届けてくれたことはまだ記憶に新しいところです。さて、大会の基本コンセプトとして掲げられていた「多様性と調和」。日本には、制度面からそれらを支える「**障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律**」があることをご存じでしょうか？平成28年4月に施行されたこの法律は、国や行政機関、地方公共団体に加え、民間事業者が「障がいを理由とする差別」を行うことを禁止するとともに、障がいのある方から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合には、負担が重すぎない範囲で社会的障壁を取り除くために必要な合理的な配慮（「合理的配慮」）を提供することを求めています。

今回は、「**職場での合理的配慮**」のあり方について、事例を参照しながら、皆さんと一緒に考えたいと思います。“一人一人が・できることを・少しずつ”行うことが、多様な人々で構成される社会を、誰もが暮らしやすい環境に変えてゆくはず。まずは「**はじめの一步**」を踏み出してみませんか？

職場での合理的配慮について

<周囲の理解促進>

- ・障がいのある社員を先輩社員が複数名で見守る体制を用意。
- ・プライバシーに配慮した上で、周りの社員に対し障がい内容や必要な配慮を説明。
- ・まずはバックヤード業務から始め、徐々に店舗内作業へ慣れるための時間的ゆとりを設ける。
- ・作業マニュアルの作成を上司と一緒に進める。（PCスキルの向上にも繋がる。）



<環境調整やオペレーションの工夫>

- ・社員一人一人が利用しやすい高さに合わせて、机の高さを調節。
- ・識字や言語理解が苦手な方に、マニュアル、指示書を色ごとに分類する。
- ・自閉的傾向の強い就労者のデスクに付箋での指示や色テープ目印をしてわかりやすくする。
- ・感覚過敏のある人のために、サングラスや耳栓、体温調整しやすい服装の着用を認める。
- ・重機の扱いで危険が及ばぬよう、セーフティー機能の付いた芝刈り機を本人用に購入。
- ・集中力の持続が難しい方向けに、単一作業ではなく複数業務を組み合わせる工夫。
- ・単純反復業務の得意な方向けに、本来業務に加え、空き時間に取り組める作業を集約。

<コミュニケーションのサポート>

- ・漢字の理解が難しい方に、社員の行動指針にルビを付けて配布し、朝礼で唱和。
- ・聴覚障がいのある人に対して、採用面接時や支援機関訪問時に手話通訳が同席。
- ・視覚情報が優位な人のために、板書やメモ、メールを併用して指示・連絡を実施。
- ・失語のある方のために、タブレットを用いた会話を実施。
- ・業務マニュアルを首から下げて携帯し、いつでも見られるようサイズを修正。記載形式も簡易に。
- ・一人一人に合わせた業務日報を会社が作成し、面談内容の整理や実態のすり合わせに活用。



<メンタル面・生活面のサポート>

- ・気分の浮沈に対して柔軟に相談できる体制を組んだり、業務内容を一時的に変えて気分転換を図る等の工夫。
- ・金銭管理が苦手な方のために、会社が収支確認表を作成。面談にて生活面の困りごとについて聞き取りを実施。
- ・下肢障害の方が通勤バスを利用する際、支給該当基準の距離を下回っていたが、特例で支給した。
- ・車椅子の方向けに交通量の少ない通勤ルートを提示。
- ・昼食購入時の本人の希望に応じた同行サポートを実施。



【ワンポイント】

社会全体で進んでいる「働き方改革」でも、「多様な働き方を選択できる社会を目指す」とされ、「働く方のニーズの多様性」への対応が求められています。障がい者雇用とは「特別なこと」でも「(相手を)特別扱いすること」でもありません。同じ職場の仲間として、(立場や能力に応じて)当たり前のことは当たり前に求め、その上で必要な配慮を行うことが、誰にとっても「働きやすい職場環境」に繋がり、社員満足やさらなる雇用拡大の一助にもなるのではないのでしょうか。

小川和紗選手 東京パラリンピック 銅メダル 獲得！！

「ならたく vol.23」で取材した、小川和紗選手が東京パラリンピック 柔道女子 70kg 級でみごと銅メダルを獲得されました！！小川選手おめでとうございます！！

子育てサポートあるある

わたしたちは、『きらっといっぽの会』(※♪)です。市のホームページに子育てエピソードを連載しています。子育ては障がいのある子もない子もいっしょです。ぜひごらん下さい！



絵：遠藤 美里

マスク着用の世となりはや2年が過ぎました。そんな中「感覚過敏」という言葉をご存じでしょうか？今回のエピソードを読んで興味がある方は、「マスク感覚過敏」と検索すると色々な情報が出てくると思います！

(※♪)『きらっといっぽの会』

市の発達支援施策について市民と市が協働で考える、「市民協働こども発達支援推進協議会」から生まれた会です。



『マスクのおはなし』

第1回目の緊急事態宣言の頃です。通う施設も「必ずマスク」となり、普段マスクなどしない息子は過剰に反応。元気なのにマスクをすると咳をするように。病院で診てもらっても、どこも悪くない。念のため咳止めをもらって様子を見ましたが、マスク→ゴホッゴホッ!ゴホッ!!→どこにも行けなくなりました(笑)。

現在も長時間着用は難しいですが、それでも本人なりに頑張ってくれて、咳はなんとか出なくなっています。

そんなある日、マスクに関する新聞記事を読んでいた時に、感覚過敏・触覚過敏という特性があることを知り「うちの子これだったのね!」と分かりました。昔から、口の前にご飯粒がつくとすぐく嫌がる、帽子×ひざかけ×布団も毛布も全部×・・・などなど。こんなのうちの子だけかと思っていたけど、たくさん困っている方がいて、とても驚きました!



他のエピソードも絶賛公開中!
このQRコードから
ホームページをご覧ください

【お問い合わせ】習志野市障がい者地域共生協議会 (通称「ならとも」)

…障がい当事者の家族、福祉事業所、行政機関の職員等が集まり、障がい者の地域生活を支えるための活動や検討会を行っています。

事務局：習志野市 障がい福祉課 習志野市鷺沼2丁目1番1号
電話 047 (453) 9206 FAX 047 (453) 9309

ならたく 習志野

検索

